

復興天守閣と登閣証明書のデザインについて

大阪城天守閣について

豊臣秀吉が建てた初代天守は天正 13 年（1585）に完成しましたが、慶長 20 年（1615）5 月 7 日に「大坂夏の陣」で焼失し、徳川幕府が再建した 2 代目天守は寛文 5 年（1665）1 月 2 日に落雷で焼失しました。3 代目となる現在の天守閣は市民の寄付金により復興されたもので、昭和 6 年（1931）11 月 7 日に竣工し、今年の 11 月 7 日で復興 94 周年、満 94 歳を迎えます。

大阪城天守閣では、大阪城史上もっとも長命な現天守閣のさらなる「長寿」を願い、平成 30 年（2018）から、復興記念日にあたる 11 月 7 日を「天守閣の誕生日」として、天守閣の復興に携わった人々の熱意や、天守閣が積み重ねてきた歴史について多くの方に知っていただく機会としています。

大阪城天守閣登閣証明書（令和 7 年 11 月 7 日）のデザインについて

てんしゅだいほくせいかどいしがき
天守台北西角石垣

大阪城天守閣の誕生日（天守閣の復興記念日）に配布している登閣証明書は、今の天守閣の外観を引き立てる瓦や飾り金具などの「天守閣の一部」を参考に毎年デザインを変えています。今回は、豊臣大坂城の石垣を公開する施設「大阪城 豊臣石垣館」がこの 4 月にオープンし話題を呼んでいることから、特に「石垣の年」と位置づけ、登閣証明書では巨大な天守閣を支える天守台の石垣を絵柄にとり入れ、形が浮き出るようにエンボス加工を施しました。

なお、現在の天守閣は、江戸時代に徳川幕府が再築した当時の天守台石垣の上に建造されています。天守台石垣の四隅は、強度を高めるために直方体の石を長辺と短辺が交互になるように積み上げた「算木積み^{さんぎづみ}」と呼ばれる特徴的な技法が用いられ、大きな見どころとなっています。

